



発行 真宗大谷派 高山教務所
発行者 出雲路 善公
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ
照らされて

「お母さん、念佛やぞ」

森 順 乃



〈略歴〉
一九三三年高山市生まれ。
高山二組秋聲寺前坊守。地
元で「八日町実ごくら会」
という短歌の会を結成する。

よく俺を産んでくれたと
礼を言い息子は不治の病
名を告ぐ
難病の息子はわれの涙見
て諸行無常の理を説く

昭和三十四年九月十三
日、長男が生まれてきて
くれました。名古屋の服
部先生という方の名をい
ただき、義父が三智丸と
名付けてくれました。難
産で大変でしたが幼少年
期は健康に育ち、高校、
大学と無事学業を終える
ことができました。

継ぎ、秋聲寺第二十二世
住職となりました。三人
の子どもにも恵まれ、幸
せな生活を送っていました
が、十年ほど前のある
日、突然、私に「俺、も
うだしかんかもしれない。
俺をよう産んでくれた。
ありがとう」と言ったの
です。「ナニ？」私は突
然のことでも何言葉が出
ません。今まで、元気で
頑張っていた子が、どう
して…。慢性リンパ
性白血病という思いもよ
らない病でした。それか
らというものの、私の胸の
なかには、大きな固まり
ができたのです。何とし
ても養生をして元気に
なつてもらわねば…。
病気がわかって数年間
は体の不調はあったもの
の、これといった治療も

できず、別院の列座や自
坊の法務もどうにか勤め
ることができましたが、
息を引き取る二年前ぐら
いからは入退院の繰り返し
で病は進むばかりでし
た。自坊の法座のたびご
とに「このお座は勤める
ことができないと思っ
ていたが」と、涙ながらに
ご門徒さん方の前で話し
ておりました。

平成二十七年の十一月
の初め、高山別院の報恩
講が勤まりました。入院
の中でなかなか熱が下が
らず案じていましたが、
そのご満座にできること
ならお参りしたいという
ので、ご輪番のお許しを
得て、嫁と孫娘が付き添
い、車椅子で内陣の後方
でお参りさせてもらっ
たことができました。息子は

どんな思いで如来大悲の
和讃をいただいたのか
でしょう。その前年の報
恩講には、結讃「如来大
悲の恩徳は」と声張り上
げて大事な一句のお勤め
をさせてもらいました。
「すべては、縁によって
生まれ、縁によって在り、
縁によって去ってゆく」と
宮城顕先生の語られた
このお言葉が、今、病と
なり死を憶った時、自身
への生きた教えとなった
ことを、皆さんへのお別
れの挨拶に書き残し、
十一月二十九日早朝、発
病以来、八年五ヶ月、
五十六歳でお浄土に還っ
て往きました。

お釈迦さまは、「諸行
無常」とお説きください
ました。「いろは歌」は
昔から生活のなかに溶け
込んだ馴染みのある歌で
したが、このごろは、あ
まり聞かれなくなりまし
た。しかし、この歌には
深い深い意味があるのだ
と習いました。

花は咲いてもたちまち
に散り、人は生まれても
やがて…。無常は生あ
るものの免れぬ道理なの
だと。戦時中、国民学校
六年生の時、国語の教科
書に『修行者と羅刹』と
いう題でこのことが書か
れていて、左端には恐ろ
しい羅刹の絵が描かれて
いたことを覚えていま
す。羅刹は帝釈天、修行
者はお釈迦さまだったの

です。息子は身をもって
この世の道理を覚えてく
れたのだと思います。
ご本山の掲示板に「亡
き人を案ずる身が、亡き
人に案じられている」と
ありますが、今、息子は、
「お母さん、大丈夫か、
念佛やぞ」と呼びかけ続
けてくれています。

息子を亡くし漸くにして
世の無常身に沁みて知る
朝な夕なに
あれこれと「気をつけれ
よ」と注意ごと時折り息
子は諭してくれたり
姿なき息子を訪ねてくれ
し友等それぞれ遅く見ゆ
ナンマンダブ
ナンマンダブ
ナンマンダブ

飛騨御坊御遠忌テーマ リレー随筆
雑行を棄てて本願に帰す
“闇より光へ 不実より真実へ 死より不死へ 我を導きたまえ!”(インドの大詩人・タゴールの詞)、こう願わざるを得ない“叫び”が、すでに弥陀の本願・第一願に誓われています。「いのち真実の世界には地獄(テロ)、餓鬼(飢餓)、畜生(不自由)の関係はありません。そういう世界に導くことを、成仏の誓いとしします」(意識)とあります。それにつけても「今の世」…私たちの住んでいるこの地球世界は、それこそ「このままでいいのかわからない」といいたくなる環境です。地獄・餓鬼・畜生のありようは、自己中心なるがゆえの怒り、知足をしらぬ飽くなき欲と、事の道理を知らぬ無智によって引き起こされる世界です。この世界をつくり住む一員として、ここに「この私」の生き方が問われざるを得ません。しかし、実際のありようは、「今の世」のありようを黙認追従して、共に平和に生きていける世界を阻害している「この私」ではないのか。そのところを一人ひとりが、弥陀の誓いに遇うことで「この私」の、あるべきことと、あらざるべきこととのありようが「このままでいいのかわからない」と気づかされ、タゴールの“闇より光へ!”という叫びとなり、“不実から真実へ”という求道心となり、“死から不死へ”という悲願となっていくのでしょうか。この叫びと求道心と悲願は、釈尊から七高僧、そして親鸞聖人に続く念仏相統の伝統であります。宗祖親鸞聖人750回の御遠忌を迎えるに当り、地獄・餓鬼・畜生のない世界の願いを世界に発信しよう。

真蓮寺住職 三島 多聞

夏の日々講座
於：高山別院 午前6時30分～
8月1日(火) 講師：垣内無一氏(須田病院医師) 講題：「認知症ってなんだろう？」
8月2日(水) 講師：田中彰氏(高山市史編纂専門員・高山歴史研究会会長) 講題：「飛騨の街道を行く 一どんな人が通ったか」
8月3日(木) 講師：長瀬公昭氏(岐阜学会理事・ヒッツFM飛騨の歴史再発見案内人) 講題：「東本願寺初代教如上人と飛騨・高山」
8月4日(金) 講師：藤原正寿氏(大谷大学准教授) 講題：「濁世を生きる依り処」
8月5日(土) 講師：水島見一氏(大谷大学教授) 講題：「浄土と娑婆」
◎講義：午前9時～ 会場：御坊会館
8月1日～3日 講師：長谷正當氏(京都大学名誉教授) 講題：「親鸞の往生の思想」
8月4日～5日 講師：水島見一氏(大谷大学教授) 講題：「先師口伝の真信 -「歎異抄」の前序に聞く-」
◎追弔会・講話：午後1時～ 会場：本堂・御坊会館
8月1日 講師：四衢亮氏(不遠寺住職)
8月2日 講師：三島多聞氏(真蓮寺住職)
8月3日 講師：藤原正寿氏(大谷大学准教授)
8月4日～5日 講師：水島見一氏(大谷大学教授)

☎テレホン法話(0577)34(2313) ○7月21日～31日：白川明子氏「願生寺」 ○8月1日～10日：山本憲人氏「貫藏寺」 ○8月11日～20日：森香里氏「秋聲寺」 宗教トラブル相談窓口(0577)3210763

私を照らす

ひかりの言葉 ⑱

酒井 義一

創作法話 人生の宿題

健太郎くんの見た地獄と極楽

学校の宿題なんて、本当はちっぽけなもの。だって、いずれなくなってしまうから。もっと大きな宿題がある。それは、人生の宿題。君にも僕にもあなたにも、人生の宿題がある。では物語の、はじめ、はじまり。

その男の子の名前は健太郎くん。小学校5年生。とつても元気がいい。でも、勉強は大嫌い。「ただいま〜」

とつて学校から走って帰ってくるとランドセルをポーンと放り投げ、ゲームのいっばい詰まったバッグを持って、「行ってきま〜す」

と元氣よく家を飛び出していきました。その時です。自動車！急ブレーキ！

「キキキキキキ〜」
気がつくと健太郎くん、暗い闇の中、白く道の上をひとりトロボトと歩いていました。

やがて道がふたつに分かれるところをやつてくると、真ん中にエンマさまがいました。

「やあ、君は健太郎くんだね。う〜ん、残念。君はまだ死んではないの。だから、ここから先には行くことができない。でもせっかくなここまで来たのだから、ちよつとのぞいていくといいよ、左に行くと地獄、右

に行く」と極楽浄土

健太郎くん、最初に地獄をのぞいてみることにしました。地獄というと、怖い鬼がいるのではないかと思いましたが、その世界は私たちの世界とあまり変わりありません。

人々の心の中には自分さえよければそれでいい、他人はどうなつてもかまわない、という心がありました。

自分さえよければそれでいい。実は私たちの心にあるそういう心が、やがて地獄を作ります。私たちの心には地獄を作ってしまう心があるのです。これが健太郎くんの見た地獄という世界でした。

次に健太郎くん、極楽浄土をのぞいてみることにしました。さぞかし人々は仲良く平和に暮らしているのではないかと思つてのぞいてみると、極楽浄土は地獄とたいして変わりありません。

争い・けんか・不登校・いじめ。同じように人々は心に闇を抱え、時に間違いを犯す。そんな世界でした。でも、ひとつだけ違うことがあつたのです。その極楽浄土には、大きな鏡がありました。

全世界を映し出すような大きな鏡があつたのです。人々は、その前で立ち止まり、自分の心に地獄を生み出す心があることをちゃんと知つていく、そういう生き方をしていたのです。

自分のことをちゃんと知つていく。これはとっても大切なことです。よい成績をとることよりも、よい学校に行くことよりも。なぜなら、どれだけよい子になれたとしても、みんな心の中に闇を持っているからです。

やがて健太郎くん、元の世界に帰る時がきました。エンマさまは最後

にこう言いました。

「地獄・極楽という世界は、死んだ後に行く世界ではない。今この世の中にある世界なんだ。どうか、自分のことをちゃんと知つていく、そういう生き方を大切にしてほしい。それが健太郎くんの人生の宿題。そう、人生の宿題だよ」

人生の宿題。健太郎くん、勉強は嫌いです。宿題も大嫌い。けれどもエンマさまが言った人生の宿題、大変心に残りました。何か大切ななあと思いました。自分のことをちゃんと知つていく。

ふつと気がつくと健太郎くん、家の前で倒れていました。車はピタッと止まって、かすり傷ひとつありませんでした。あまりびっくりしたので、しばらく気を失つていたので、これが健太郎くんの体験した不思議な物語です。

自分のことをちゃんと知つていく。そういう生き方を一人ひとりが見つけていく。これが私たちの人生の宿題です。私たちに闇があるのですから。誰もが持つている人生の宿題。皆さん、この宿題をけつして忘れないように生きていきましょう。

おしまい、おしまい。



今回は藤場芳子さんの「女と男のナムアマミダブツ」です。

定例法座・法話(午後1時から) ○7月21日(金)：照元圓氏「浄念寺」 ○7月27日(木)：出雲路善公輪番 ○7月28日(金)：牧ヶ野良三氏「遊浄寺」 ○8月11日(金)：出雲路善公輪番 ※7月24日午前10時〜午後3時 別院虫干し。雨天中止。

夏休みおつとめ会開催寺院

※時間に記載のない寺院はラジオ体操後

- 【高山】本教寺(0577-32-1748) 夏休み中(お盆まで) 秋聲寺(0577-33-9324) 7/22(土)から毎日 西蓮寺(0577-33-8090) 7/24(月)〜28(金) 隨縁寺(0577-32-2567) 7/22(土)、29(土)(会場:隨縁寺) 午前7時半〜 7/25(火)(会場:下切町公民館) 誓願寺(0577-32-5241) 7/21(金)〜29(土) 【丹生川】還來寺(0577-78-1071) 7/24(月)〜31(月) ※土日を除く 【朝日】西教寺(0577-55-3632) 7/24(月)〜31(月) 午前6時45分〜午前7時15分 【国府】南春寺(0577-72-2836) 7/21(金)〜31(月) 【莊川】浄念寺(05769-2-2094) 7/24(日)〜8/25(金) 午前7時〜午前7時半 寶藏寺(05769-2-2124) 7/24(月)〜27(木) 蓮勝寺(05769-2-2043) 7/24(月)〜8/5(土)(会場:蓮勝寺) 8/7(月)〜11(金)(会場:下野々保公民館) 8/17(木)〜23(水)(会場:下野々保公民館) 【白川】常德寺(05769-5-2029) 7/21(金)〜30(日) 敬勝寺(05769-6-1421) 7/21(金)〜8/27(日) 午前7時から

子ども会開催寺院

- 【鉄砲町】真蓮寺(0577-34-2507) 7/30(日) 午前10時〜11時半 隔月1回(土曜か日曜の午前)

- 専念寺(0577-34-2506) 月1回開催 7/29(土) 午前10時半〜午後12時 子ども会流しそらめん 【岡本町】願生寺(0577-32-0032) 7・8月 月1回(土曜か日曜) 午前9時〜午前10時半 【下之切町】西蓮寺(0577-33-8090) 7/29(土) 午前10時〜11時半 【漆垣内町】圓徳寺(0577-34-4555) 不定期開催 ※お問合わせは圓徳寺まで 【山口町】了心寺(0577-32-5956) 毎週日曜日 午前8時半から 【丹生川】還來寺(0577-78-1071) 日曜日(隔週) 午前9時から 【一之宮】往還寺(0577-53-2004) 月1回開催 8/27(日) 午前8時〜9時 【久々野】久々野教会(0577-52-2633) 月1回開催 8/20(日) 午前8時半〜9時半 【国府】西念寺(0577-72-4585) 7/22(土)〜24(月)(会場:萩野集会所) 7/27(木)〜31(月)(会場:金福公民館) 7/22(土)〜30(日)(会場:西念寺) 【宮田】賢誓寺(0576-55-0747) 子ども会 7/24(月)、8/24(木) 午前9時〜11時 おとまり会 8/17(木)〜18(金) 午後4時〜翌日9時 【小坂】浄福寺(0576-62-2208) ①7/21(金) 午前9時半〜11時 ②8/10(木) 午前10時半〜12時 ③8/23(水) 午前9時半〜11時 【白川】常德寺(05769-5-2029) 9/4(月) 午後7時〜午後8時 「親と子どもの報恩講」 お近くの寺院へ是非ご参加ください!

福島を知るための講演会

日時 7月24日(月)午後7時から
講師 木ノ下 秀俊氏 (仙台教務所・現地災害救援本部福島事務所)
講題 ふくしまのひとびと
会場 高山別院庫裡ホール
協力金 500円 大学生以下 無料

保養事業支援金のお願い

福島在住の子どもたちを高山に迎え6年目。今年8/19から8/23の間、飛騨の自然にふれながら過ごしていただきます。皆さまからの支援金を募っておりますので、温かいご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。(お問い合わせ TEL(0577)32-0688 別院三枝)

【主催】「福島から遊びにおいでよ2017」実行委員会

夏まつり



2017.8.16(水) 午後5時〜(雨天決行)